# ＪＲ東海労ニュース

№２１５４
２０１７年2月２６日
ＪＲ東海労働組合


## ニコニコしてはいられない！
## プレミアムフライデー
## 一体何の目的があるのか！

２月24日（金）、プレミアムフライデー（プレ金）がスタートしました。プレ金は、経団連と経済産業省が「プレミアムフライデー推進協議会」という組織を立ち上げ、月末の金曜日に退社時刻を15時にするというものです。早速、各テレビ局は、ショッピングセンターや15時に開店する居酒屋などで、サラリーマンを取材しました。

プレ金は「家族との団らんを楽しむ時間をつくる」「ショッピングを楽しむ」など、良いことずくめの宣伝がされています。果たしてそうでしょうか？

15時に退社できたからといって、労働時間が削減されるわけではありません。その分、他の日に労働時間を振り分けられられるでしょう。例えば、退社時刻が17時から17時10分になるなどです。また、決められた業務量やノルマがあれば、他の日にやることになります。ただでさえ日本は残業が世界の中でも多い国です。どこまでが所定内労働時間でどこからが残業時間なのかの区別も曖昧化される恐れもあります。

推進母体は、厚生労働省ではなく経済産業省です。労働者の労働条件改善とは無縁で、経済活性化のために目的があるのです。つまり、冷え込んでいる消費を拡大して経済を潤すという目的です。だから、経団連が絡んでいるのです。プレ金を導入した企業はわずか約2.5％です。月末の金曜日の売り上げが良くなったとしても、財布の紐が固い労働者は別の日の支出を抑えるのが関の山です。

消費を拡大するためには、まず消費税を下げ、非正規労働者をやめ正規労働者にした上、労働者の賃金を上げるしかありません。安倍政権は恐らく、プレ金を利用して「アベノミクスは成功」としたいのでしょう。

労働者を愚弄してはいけません。プレ金は「労働者のガス抜き」だと見破っています。プレ金に賛同するとしたら、賃金引き上げや労働時間短縮に逆行していることになります。私たちは、そのような愚策に騙されません。